三鷹中央学園

令和元年度　三鷹中央学園の評価・検証　結果報告

検証項目	１　コミュニティ・スクールの運営
目標	コミュニティ・スクール委員会の組織を活用し、連携しながら、学校、保護者、地域が一体となった取組を推進し、協議と支援の充実を図り、目指す学園生像の実現に努める。
取組	①　開園10周年を節目として、これからのＣＳ委員会のあり方、持続可能な制度の工夫を模索しながら、新たなＣＳ委員会の構築を図っていく。 ②　限られた時間を有効に生かすため、教職員とＣＳ委員・保護者・地域住民が合同研修会等の場面で、一緒に協議したり、勉強したりする機会の運営日の設定や運営の仕方等を工夫しながら充実させていく。 ③　地域人財やボランティアの活用については、計画段階からの綿密な打ち合わせが必要である。新たな学習ボランティアの募集システムを活用しながら、学校が年度当初の計画段階から要請し、連絡・調整を図りながらより円滑に進めていく。

成果	課題と改善方策
①　ＣＳ委員会の役割を確認するとともに、運営の仕方等を工夫しながら改善を図ることができた。特に、学園・学校評価アンケートの手法や成果のまとめ方を工夫することでより効果的に評価を実施することができた。 ②　学校公開の日にＣＳ委員会を開催し、地域と学校の双方が参加しやすい状況を作り出すことができた。特に、第四中学校の道徳授業地区公開講座での協議への参加も増え、学校の状況を深く知る機会となった。 ③　学習ボランティアの説明会や研修会を計画的に実施するなど、綿密な連絡・調整によって新しい募集システムへの対応を段階的に進めることができた。	①　地域協働活動の充実を目指し、ＣＳ委員会の役割と担当をより一層明確にして、誰もが役割を担えるよう、運営体制を確立させていく。 ②　本年度の成果を活かしつつ、学園の教務担当と調整するなどして百人熟議等の協議や合同研修の機会を充実させるとともに、市政70周年記念事業に協力し、その成果を広く他に提供していく。 ③　本年度末及び新年度初めから、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、新しい学習ボランティアの募集システムの理解を深めるとともに円滑な活用が図れるようにしていく。

検証項目	２　小・中一貫教育校としての教育活動
目標	「15歳の姿に責任をもつ」教育活動を推進する。 ①　学園研究会を核として、思考力や表現力等を育む指導を工夫する。 ②　交流活動の一層の充実を図る。
取組	①　小・中一貫カリキュラム三鷹中央学園版を取りまとめ、次年度の小学校新学習指導要領の全面実施に備える。小学校の採択教科書が決まり次第、カリキュラムに微調整を加えてより具体的な指導内容や評価方法を研究して行く。それに応じた学園研究組織を構築して、研究を進めていく。 ②　開園10周年記念集会や記念式典と関連させ、交流を深めていく。児童・生徒の交流について、実施の時期や内容を見直しながら充実させていく。併せて、その取組について、保護者での理解を深めていくために、参加を呼び掛ける等して保護者の理解をさらに深め、学園評価アンケートでも、わからないという回答の減少に努めていく。今後、広報等での周知や学校公開での実施など積極的に示していく。

成果	課題と改善方策
①　学園研究として各教科分科会を中心として、本学園版の小・中一貫カリキュラムを取りまとめることができた。また、次年度の研究計画にも反映させることができた。 ②　開園 10 周年記念の取組として、全児童・生徒集会及び市記念式典への参加に向けた活動により、学園への所属感と交流する意識が高まった。また、学園の取組を学園ホームページ等で紹介することで学園・学校評価アンケートでの肯定的な評価も17%増加している。	①　本年度作成したカリキュラムを実証する研究を進め、児童・生徒が学習でつまずくことなく理解を深めていけるよう、指導のポイントを明確にしていくための授業を実践していく。 ②　子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。

検証項目	３　（知）確かな学力
目標	「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン・すすんで学ぶ人」の取組内容を基に、学校・家庭・地域の実践内容を具体的に展開し、学習習慣の改善を図り、確かな学力を育む。
取組	①　家庭学習の習慣化など家庭との連携など実践可能なものにしていく必要がある。教員・ＣＳ委員・保護者・地域住民が協力して合同研修会で現行のパワーアップアクションプランの内容を熟議し、実行可能なものに再構築していく。特に、家庭学習については、９年間で段階的に家庭学習に取り組めるよう、家庭の状況をそれぞれの学校で踏まえながら、方策を考えていく。 ②　読書の推進が学力の向上にもつながることを踏まえ、読書に対する肯定的な割合がまずは８割を超えるように、児童・生徒自身が生活時間を見直し、読書時間を確保して習慣化を図るよう学園全体で、また各校でも指導を継続していく。

成果	課題と改善方策
①　本年度の百人熟議では、現行のパワーアップアクションプランの内容について、グループごとに焦点化を図った議論を行うことができた。 ②　徐々に各校が目標とする読書活動も充実してきている。また、学校図書館を利用した調べ学習もできるようになってきている。	①　小・中学校ともに基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた適切な指導によって学力の向上を図っていく。そのための一つの方策として、パワーアップアクションプランで学力の向上をテーマとするなどして議論を深めるとともに、家庭学習の取り組み方の目安等を具体的に家庭に事例として紹介していく等のアイデアを出し合って、さらなる充実を図れるようにしていく。 ②　各校における状況に応じて望ましい読書の習慣化が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。

検証項目	４　（徳）　豊かな人間性
目標	地域・保護者と連携し、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施して、いじめを防止する。また、学園生活指導重点目標の実現を図り、自己肯定感・自己有用感をもつ学園生を育む。
取組	①　児童・生徒の安全面にも配慮しながら、校内、校外を問わず、特に地域住民や校内にいる保護者、来校者などへのあいさつを励行し、習慣化を図っていく。 ②　三鷹中央学園児童・生徒代表者会議を通しての児童・生徒自ら主体的に取り組む姿勢を継続する。いじめの有無だけではなく、未然防止や早期発見対応の重要性を保護者にも伝え、学校と家庭が連携できる対策を講じていく。 ③　ほめて励ますことを基本として、これまで以上に、子ども一人一人の活躍の場、成就感を得られる場を作り、声掛けや表彰などを保護者、地域住民の皆で活発にし、あらゆる機会を通じて自己肯定感や自己有用感の醸成をしていく。

成果	課題と改善方策
①　学園・学校評価アンケートでは、子どもたちのあいさつは昨年度比で８％の増と良好である。 ②　学園・学校評価アンケートでは、いじめや暴力のない学校づくりへの取組に関して、肯定的な回答が20%の増と良好である。 ③　学校だけでなく、保護者や地域住民の協力を得て、ほめて励ます場を大切にし、声掛け表彰等を積極的に行ってきた。児童・生徒アンケートでは、クラスの一員として役に立っているという肯定的な回答は例年通り概ね良好である。	①　昨年度、本年度と低学年の児童の自主的なあいさつが少ないと地域の方からもご指摘があることから、引き続き、各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実に努めていく。 ②　引き続き、家庭との連絡を密にしながら組織的な支援を充実し、子どもの悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組を分かりやすく保護者に伝えていくようにする。 ③　引き続き、一人一人が活躍できる場や成就感をもてる場を作り、ほめて励ますことを徹底して、どの子も自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていく。その結果、児童アンケートで最良回答の増を目指す。

検証項目	５　（体）　健康・体力
目標	発達段階に応じた体力・運動能力・防衛体力が身に付くように、生涯にわたって健康や体力に興味・関心をもち、自ら取り組もうとする態度を育む。
取組	①　児童・生徒や家庭に、学校での体力作りに加え、放課後など学校以外での運動を通して、生涯にわたる体力向上や健康増進の姿勢を身に付けさせることの大切さへの理解をより一層深めていく。 ②　東京２０２０オリンピック・パラリンピックの前年度にあたることから、各校で計画した計画に基づいて確実に実施し気運を醸成するとともに、開催後を見すえレガシィーとなる持続的な取組を、今のうちから計画していく。

成果	課題と改善方策
①　学園・学校評価アンケートでは体力・運動能力の向上への取組に関して、昨年度比で小学校は 10%、中学校で 20%とそれぞれ増加しており、体育の授業や休み時間の遊び等を通しての成果が表れている。 ②　東京オリンピック・パラリンピックに向け、各校で計画したトップアスリート等との交流を通した取り組みを確実に実施することで、児童・生徒の大会への期待感と競技への関心を高めることができた。	①　各校の体力・運動の能力の実態に応じて、日常の体育の授業や休み時間における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ②　単なるイベントへの参加や体験に終わることなく、各校の体力づくりの取組や総合的な学習の時間の工夫を通して、大会後もレガシィーとして継続して実施できる活動を確立していく。

検証項目	６　特色ある教育活動
目標	「防災の中央学園」と呼ばれる防災教育の一層の充実を図り、自助・共助・公助を通して、防災の知識と自己肯定感・有用感を育む。
取組	①　防災教育の９年間の系統的な内容配列に基づき、各発達段階での指導内容について、引き続き検討していく。市防災課や（一社）みたかＳＣサポートネットと協働しながら、教材（カンガエル防災）の改訂や新しい視点での指導内容の工夫しながら実践を深めていく。 ②　防災教育において、実体験は欠かせないプロセスであり、中央学園を会場としてコミセンの総合防災訓練が開催されることから、防災に特化した授業日として多くの児童・生徒を参加させ、地域の防災についての理解を深めさせていく。

成果	課題と改善方策
①　市防災課や(一社)みたかSCサポートネットと協働しながら、各学年の発達段階に応じた指導を工夫し改善しながら着実に実践することができ、学園・学校評価アンケートでも9割以上の肯定的な回答を得ることができた。 ②　天候不良のため、市防災訓練は中止となったが、その実施に向け、各コミセンとその関係諸機関との連携により立案を共に進めることができたことは大きな成果である。	①　本学園の特色ある活動として定着してきていることから、引き続き、各校での取組を計画的に実施していくとともに、活動内容を適時にわかりやすく保護者に伝えていく。 ②　令和2年度は市防災訓練のメイン会場となることから、引き続き、関係諸機関との協働によって、児童・生徒の参加により体験を通して地域の防災について理解を深めていけるようにしていく。

検証項目	７　学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	教職員が意欲をもって、前向きに職務に取り組めるようにするため、実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。
取組	①　働き方改革によって生まれた余裕が、教育活動にどう生かされているのかなど、具体的な事例を示し、周知を図って、理解を求めていく。 ②　働き方改革のための新しいシステムや制度についても年度当初からわかりやすく説明し、周知を図るとともに、時間外の様々な活動についてコミュニティ・スクールの教員としての働き方改革の工夫をしていく。

成果	課題と改善方策
①　学園で働き方改革を推進することで教育の充実を図っていることについて、学園・学校評価アンケートで昨年度比 15%増と徐々に理解していただいている。 ②　みたか未来塾やスクール・サポート・スタッフ等の新しいシステム、会議の短縮やペーパーレス化等の仕組みを学校の状況に応じて取り入れるとともに、学校滞在時間の縮減に向けた時間の有効的な配分等、各教員の工夫によって、働き方改革を推進することができている。	①　取組の充実のための工夫、保護者への広報を引き続き、学園として３校で徹底していく。 ②　新しいシステムのより効果的な活用や校内での事務作業にかかる時間の短縮などを図るとともに、コミュニティ・スクール委員会との合同研修を休日の学校公開日に実施するなどの工夫を進め、勤務時間内の仕事として調整していく。

令和元年度　三鷹中央学園の評価・検証結果のまとめ

（１）から（７）の検証結果を踏まえて

１　「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと

本年度の取組として、次の４点についての取組でよい成果が得られた。
①②についてもこれまでの継続した取組によって、本学園の特色ある活動として定着してきているため、引き続き、各校での取組を計画的に実施していくとともに、活動内容を適時にわかりやすく保護者に伝えていくよう努めていく。
また、開園 10 周年記念事業の推進に伴い、学園・学校評価アンケートでも昨年度比 17%上昇した③④は交流活動の充実と保護者への紹介の工夫による成果である。
①　学園として防災教育を行い、子どもたちが平時の備えや災害時に取るべき行動を身に付けること。
②　地域人材や学習ボランティアを積極的に活用すること。
③　小学生同士の交流や小学生と中学生の交流を通して、学園の子どもたちが仲間意識を高める取り組みを行うこと。
④　学園だより・学園・学校ホームページで学園の取り組みや子どもの様子を保護者・地域に伝えること。

２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること

本年度の課題のうち、次の３点を次年度の重点課題とする。
学園・学校評価アンケートの結果から、①は昨年度比 15%増であるが、継続して改善していく必要がある。②は昨年度比 17%増であるが、各校の実態に即して改善を図っていく必要がある。③は昨年度比８%増と低く、昨年度、本年度と低学年のあいさつが少ないとのご意見もあることから、引き続き、改善していく必要がある。
①　学園で働き方改革を推進することで、教育の充実を図ること。
②　子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を行うこと。
③　学園の子どもたちがあいさつをすること。
　このほか、「子どもの悩みや問題への対応」や「体力・運動能力の向上」にも学園として連携して、各校の課題に応じて実践していく必要がある。

３　「２」の重点課題を解決するための改善策

次年度の３つの重点課題を解決していくために、次の３点のように取り組み改善していく。
①取組の工夫、保護者への広報を学園で徹底し、学園で働き方改革を推進することで、教育の充実を図っていく。
②各校の実態に即して各教科や総合的な学習な時間等でキャリア教育につながる学習を充実させ、子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考えることができる授業を実践していく。
③あいさつは日常生活の基本である。各家庭でのあいさつの励行を進め、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実によって、しっかりとあいさつできるようにしていく。